

発行：2014年8月

編集：山辺昌彦、山根和代、安齋育郎

イラスト：戸崎恵理子

事務局：戦争と平和の資料館ピースあいち 宮原大輔

住所：〒465-0091 名古屋市名東区よもぎ台2-820

Tel & Fax: 052-602-4222

平和のための博物館・市民ネットワーク全国交流会のご案内

第13回平和のための博物館・市民ネットワークの交流会を明治大学生田校舎で以下のとおり開催します。昨年開催予定でしたが台風により中止になりました。昨年のプログラムとほぼ同じ内容ですが、今後の調整により変更する場合があります。また詳細未定のところは今後決めていきます。

今回は、明治大学平和教育登戸研究所資料館(明治大学生田校舎内)の見学があります。交流会では同資料館館長山田朗先生、同大学院講師渡辺賢二先生の特別報告が予定されています。開催にあたっては、明治大学平和教育登戸研究所資料館のご協力をいただいています。

みなさま、ぜひご参加ください。

○全国交流会 1日目

2014年10月25日(土)

会場 明治大学生田校舎内(教室未定)

12:30 受付開始

13:00~14:00

・報告と交流

(報告者は事前にお申込みのうえ、各自プリントを50部ご用意ください)

14:00~15:00

明治大学平和教育登戸研究所資料館の見学
(渡辺賢二先生のご案内により)

15:00~15:30



Erico

渡辺賢二先生(明治大学大学院講師)

「明治大学平和教育登戸研究所資料館開設の意義と開館後の成果と課題」30分

15:30~18:00

・報告と交流

18:00~20:00

懇親会(キャンパス内学生食堂にて)

○2日目 26日(日)

会場 明治大学生田校舎内(教室未定)

9:00~10:00

・特別報告

山田朗先生(明治大学平和教育登戸研究所資料館館長・文学部教授)(予定)

「自民党安部政権下での歴史認識と歴史教育を巡る現状と平和博物館の課題」60分

10:00~12:30

・報告と交流 つづき

・来年の開催地のご相談、「平和のための博物館・市民ネットワーク」の会計・事業報告も行ないます。

○参加費 500円（講師謝礼などのため参加費を集めさせていただきます）

○懇親会 会費3000円（飲み物代含む）

○宿泊 各自でご手配ください。新百合ヶ丘駅前のホテルモリノを紹介します。
<http://www.hotelmolino.co.jp/>
〒215-0021 神奈川県川崎市麻生区上麻生1-1-1（小田急線生田駅より3つ目）
電話 044-953-5111、FAX 044-953-1515

○参加申し込み

交流会参加・報告・懇親会参加についてそれぞれ10月19日（金）までに宮原へ
宮原 Eメール arc@vega.ocn.ne.jp、
FAX052-602-4222（ピースあいち 宮原宛）

○運営委員は26日（土）11時、現地（資料館）に集合をお願いします。



7周年を迎えた山梨平和ミュージアム 山梨平和ミュージアム 浅川 保

2007年5月、甲府市朝気に山梨平和ミュージアム—石橋湛山記念館—が開館して7年余が経ちました。この間、常設展示の他に、年2回、都合14回の企画展を開催（現在は、企画展「秘密保護法を考える」を14年10月末まで開催中）、入館者は13年11月に1万人を超えました。また、毎月1回、通算8

0回を超える講演会・シンポジウム等を行い、マスメディアにも数多く取り上げられました。

14年6月15日、開館7周年記念講演は、憲法学界の第一人者の水島朝穂氏（早大教授）を講師に100名が参加、盛況裡に終わりました。水島氏は「日本国憲法の原点と現点—石橋湛山に学ぶ」の演題で「憲法は国民が守るものではなく、権力者を縛るものであり、安倍政権による集団的自衛権行使容認の動きは、改憲でなく壊憲である」と厳しく批判、また、山梨ゆかりの石橋湛山にふれ、「石橋政権がもう少し長く続けば周辺国との関係や日米安保などの面で日本は変わっていたらう」と話しました。

今年は石橋湛山生誕130年の節目の年です。山梨平和ミュージアムでは9月15日に増田弘東洋英和大学教授、浅野純次元東洋経済新報社社長を迎えて記念シンポジウムを予定しています。ぜひ、ご参加下さい（午後2時～於甲府市朝気 ぴゅあ総合）。

アクティブミュージアム「女たちの戦争と平和資料館」(wam)

館長 池田恵理子

昨年末からこの半年余り、wamは安倍政権の暴走・迷走に怒り狂いながら、慌ただしく走り回ってきました。特定秘密保護法の制定、靖国神社参拝、そしてついに集団的自衛権の行使容認を閣議決定！安倍首相は「美しい国へ」「戦後レジームからの脱却」を唱えて戦前のファシズム国家の植民地支配や侵略戦争を肯定し、平和憲法を亡き者にしたいのです。当然のことながら、彼は「慰安婦」の強制の証拠はないと主張し続け、「河野談話」の見直しを目論んでいます。中学の歴史教科書から「慰安婦」の記述を削除させた後は、自分の思い通りに世論を誘導しようとメディア支配にとりかかっています。

そのためNHKには安倍首相に近い4人が経営委員として送りこまれ、新会長が選任されました。その靱井勝人会長は1月の就任記者会見で、『慰安婦』は戦争をしているどこの

国にもあった」「韓国とは全て解決済みだ」と述べ、事実誤認と無知と人権感覚の欠如をさらけ出してしまいました。「政府が右ということをして左と言うわけにはいかない」など、NHKは政府の広報機関と位置づける発言もあって、私たちを呆れさせました。

wam は抗議声明を出して会長の辞任を求め、「慰安婦」支援団体とともにNHKへの申し入れや署名運動、抗議行動を行ってきました。殺到した批判に対して会長は、国会や番組などで陳謝してみせたものの辞める気はなく、理事の人事や番組への干渉を続けています。秘密保護法や集団的自衛権に関するNHKの報道姿勢には、忌々しい偏りが感じられます。NHKは女性国際戦犯法廷を取り上げたETV番組改変事件の裁判過程で、安倍・中川議員らによる番組への政治介入が明らかになっても自ら検証番組を作ることもなく、「慰安婦」番組をタブーにしてきましたが、ついここへ来て最悪の状況に陥っているのです。

そこでwamでは7月3日から11月まで、「中学生のための『慰安婦』展+ (プラス)」というアンコール企画を急遽開催することにしました。「慰安婦」に関しては、政治家による暴言が垂れ流されるばかりで、教育からもメディアからも無視・黙殺されてきたため、その被害実態を知る人がわずかしかいなくなってしまうました。だからこそ、この問題の基本情報を提供しなければならないと痛感したからです。開幕早々、嫌がらせ電話やネットへの悪意の書き込みが増えており、右翼の攻撃にさらされる事態も予想されますが、怯んではいられません。早稲田界限にお越しの折は、こんなwamのささやかなミュージアム運動を視察・激励に、是非お立ち寄りください。

第五福竜丸展示館



本年は1954年のビキニ水爆実験から60年にあたり、展示館を管理運営する公益財団法人第五福竜丸平和協会では、記念事業にとりかかっています。

その基本構想は、水爆開発の時代(1952年より63年の部分的核実験禁止条約までを一

つの区切りと考えている)に改めて目を向け、核の開発、グローバルフォールアウト(世界規模の放射性降下物の飛散)、核被害の拡散、核戦争計画の非人間性などを確認しようというものです。

ブラボー水爆実験の3月1日、第五福竜丸平和協会は記念のつどいを開き、320名が参加くださいました。講演は地球科学者の池内了さん、現代の戦争と大量殺りくの歴史、その究極としての核兵器そして原子力発電の限界と転換について解明しました。記念演奏は作曲家・ピアニストの三宅榛名さんによる第五福竜丸によせる書き下ろし作品「暗い海から」を始めバッハ、モーツァルト作品が披露されました。

この日、記念出版として『第五福竜丸は航海中―ビキニ水爆被災事件と木造漁船60年の記録』を発行しました。ビキニ事件、第五福竜丸被ばくの経緯と展示館所蔵資料、核問題年表などを収録しています(B5判216頁、カラー図版、2000円+税)。

4月から9月までは4回の連続市民講座「いま、水爆の時代を問う～核と向き合い明日～」を開講します。死の灰と立ち向かう、放射能雨、海洋汚染、日米外交・政治、経済、米水爆開発と軍部、フォールアウトの被ばくについてなどのテーマで各講師から熱のこもった報告がなされています。これまで約300名が参加、来春には報告集を刊行します。

この秋には、アート企画としてイラストレーターの黒田征太郎さんによるラッキードラゴンと題した描き下ろし作品の展覧会(10月11日より)と記念コンサート「第五福竜丸の新たな出航」(10月26日)を開催します。林光さんの「ラッキードラゴン・クインテット」演奏をはじめ56年前に原水爆禁止運動のために創られた安部公房作、林光作曲作品「最後の武器のなかの5つの歌」が演奏されます。

第五福竜丸展示館では、ビキニ60年から広島・長崎70年へと、核の惨禍を学び伝えると取り組みをすすめます。

『NPO・中帰連平和記念館』近況

事務局長・理事 芹沢昇雄

記念館では5月25日に「総会」を開き、松村高夫理事長を始め13人の理事と2人の監事が再任され、新たに長岡大学教授の兒嶋俊郎さんを理事に迎えました。

最近の記念館は労組や市民団体など大口見学者は少なくなりましたが、本当に此処の「資料」を必要とする人たちが来館しています。

「特定秘密保護法案」に対して12月1日の理事会で「即時廃案を求める」要請書を決議し、衆参両院議長などに送付しました。また、朝日新聞2014年4月28日付の「中国、旧日本軍史料洗い直し 対日圧力を強化、研究者から懸念も」の記事に対し、「旧日本軍史料の積極的公開を支持し、歴史の事実に基づいた日中関係の発展を求める声明」を総会で決議し朝日新聞社に送付しました。

最近の日中関係の悪化からか、6月に中国中央TVと香港フェニックスTVが相次いで「中帰連と記念館」の取材に来日来館しました。また、英国と仏国で日本を紹介しているフリーペーパーの月刊誌『ZOOM JAPAN』も来館し、松村理事長のインタビュー記事や館内資料撮影を広報してくれました。

記念館では総会と年3回の理事会の午後、会員以外にも広報し講演会や学習会を開いており、今年の講演は都留文科大学教授の伊香俊哉さんをお願いし「戦争はどう記憶されるのか」(柏書房・刊)のテーマで講演をお願いしました。

1945年の敗戦前日に「責任を取る」とたった一人朝日新聞を辞め、故郷の横手で週刊新聞『たいまつ』を30年に渡り発行を続け、今年の「J C J特別賞」を受賞したむのたけじさんが6月11日に、医師で息子さんの武野大策さんと共に来館下さいました。急なことだったので「講演会」を開けず、理事と普段ボランティアで協力下さっている皆さんとの「懇談会」を設定しました。

99歳になったむのさんは大変お元気で、あの大きな声で机を叩きながら安倍政権や現状を批判し2時間ほどの懇談となりました。むのさんは「此処が日中問題を話あう埼玉の中心になるといい」と期待と評価下さり、親子で「記念館」への会員登録もして下さいました。

8月に明治大学生田校舎で開かれる「第18回戦争遺跡保存全国ネット」や、9月に韓国・ノグンリで開かれる「第8回国際平和博物館会議」にも発言の機会を得て、芹沢事務局長や松村理事長が発言を予定しております。



むのたけじさん

ピースあいち企画展「戦争と若者―断ち切られた命と希望」を開催

ピースあいち事務局長 宮原大輔

戦争と平和の資料館ピースあいちではこの夏の企画展として「戦争と若者―断ち切られた命と希望」を開催しています。

展示は3部構成となっています。

第1部のテーマは「きけわだつみのこえー戦没学徒たち」で、学徒出陣で学業半ばで戦場に赴き、亡くなった若き学徒たち―上原良司、上村元太、木村久夫ら8人―をわだつみのこえ記念館所蔵資料や解説パネルで展示し、また「もう一つの学徒出陣」として日本の大学で学んだ後、陸軍の特攻隊で沖縄で戦死した朝鮮人学徒兵卓庚鉉(タクキョンヒョン)を紹介するとともに、国が朝鮮人学徒を志願させるために大学に対して圧力をかけた実態を中央大学所蔵の資料で紹介しています。さらに、15歳で志願し、16歳で攻撃機に乗り組んで沖縄南西諸島海域で消息を絶った、地元愛知一中(現在の旭丘高校)の鈴木忠熙(すずきただひろ)について、ピースあいち所蔵の遺品を展示しています。

第2部のテーマは「女学生たちの悲劇―豊川海軍工廠」で、愛知県の豊川海軍工廠への爆撃で犠牲になった女生徒たちを立命館大学国際平和ミュージアム、豊川市桜ヶ丘ミュージアム所蔵の遺品約30点を紹介し、豊川海軍工廠や学徒勤労動員についての解説パネル

を展示しています。

第3部のテーマは「戦没画学生の絵―無言館より」で、長野県上田市の戦没画学生慰霊美術館無言館所蔵の作品より7人9作を展示し、また若き画家たちのプロフィールを紹介しています。

開催の要項は以下のとおりです。

開催期間 2014年7月22日(火)～8月31日(日) (開催期間中の休館日 月曜日)

開催時間 午前11時～午後4時

開催場所 ピースあいち3階展示室

入場料 大人500円、小中高校生200円(入館料を含む)

会場に展示されている「開催の趣旨」を紹介します。

人々の記憶の中で戦争は過去のものとなり、映像で見る戦争の姿は見る人に痛みを伴わなくなりました。かつて戦争においては、兵士が海外に動員されただけでなく、すべての国民が戦争に駆り立てられました。国家総動員です。その中で、10代の小中学校生や高校生、大学生たちも戦争に巻き込まれ、命を失いました。

この企画展は、戦争と若者をテーマにしています。70年前の若者たちが残した遺品の前に立ち、声なき声を聞き、姿なき姿に思いを巡らせてみましょう。

今、日本が「戦争ができる国」になろうとしている時に、かつて戦争のなかで、若者たちを襲った運命とはどのようなものだったのか、何を想っていたのかを振り返ります。

関連企画として以下の要項で講演会を開催します。

演題 「特攻隊員上原良司が遺したもの」

講師 亀岡敦子(上原良司研究家)

日時 8月2日(土)

13:30～15:00

会場 ピースあいち1階

講演会参加費 500円(小中学生無料)

※講演会参加申し込みはピースあいちへお電話ください。

夏季のその他の企画も紹介します。

○夏の戦争体験者による語り

8月1日(金)～15日(金)14時～
※日、月及び2日、8日を除く全9回を予定。
入館料のみで参加できます。

○15歳の語り継ぐ戦争―金城学院中学生の壁新聞展

7月22日(火)～8月31日(日)

ピースあいち2階にて

※入館料のみで観覧できます。

■お問い合わせ

戦争と平和の資料館ピースあいち

〒465-0091 愛知県名古屋市長区よもぎ台2-820

電話/FAX 052-602-4222

ホームページ

<http://www.peace-aichi.com/>

立命館大学国際平和ミュージアムの2014年度前期活動報告：京都市

立命館大学国際平和ミュージアム鳥井真木

立命館大学国際平和ミュージアムは、6月17日に来館者90万人(堺市立金岡南小学校6年生122名)を迎えました。京都市内の16の大学ミュージアムが集まり2011年に発足した「京都・大学ミュージアム連携」は、2014年3月30日に新たに包括協定を締結し、新たなスタートを切りました。以下に、2014年度前期に開催した展示・活動の一部を紹介します。

【特別展】

● 春季：奪われた野にも春は来るか 鄭周河 写真展 5/3～7/19

オープニングトーク 5/3 鄭周河(写真家) 徐京植(作家) 河津聖恵(詩人)

トークイベント 6/7 高橋哲哉(哲学) 庵途由香(朝鮮史)

7/19「福島を見つめた留学生たち」安斎育郎(名誉館長)「福島の今と復興支援を考える」、山口洋典(立命館災害復興支援室)福島を訪問した留学生、学生らと討議

● 巡回：世界報道写真展2014 京都：9/17～10/12 滋賀：10/14～10/30 大分：11/2～11/16

【ミニ企画展】

- 第84回：京都青春時代パート2-学生と高度経済成長の風景 2/8～3/30
- 第85回：ベトナム戦争の傷痕（村山康文写真展）4/3～4/29
- 第86回：ロベルト・ユンクの生涯「ヒロシマを世界に伝えるー核の被害なき未来を求めて」（ユンク科研グループ）5/13～6/1
- 第87回：カンボジアの子どもたち（学生自主ゼミ）6/7～7/6
- 第88回：健康はお国のために一スポーツと戦争 7/12～8/29

【学外展示】

- BKC開設20周年サンクスデー展示「学徒出陣・学徒動員 戦争と大学そして学 6/1
- 茨木市非核平和展「さいころくん」を通してみる世界 7/29～8/3 茨木市中央図書館

【講演会ほか】

- 立命館土曜講座：若い世代に語り継ぐ戦争と平和ー学徒出陣70年から、戦後70年を見すえて 8/2（第3102回）「学徒出陣」と大学の戦争責任 白井厚（社会思想史）8/30（第3103回）「人貴キカ 物貴キカ」ー防空法制から診る戦前の国家と社会 水島朝穂（憲法）
- ボランティアガイド学習会第1回（8/23）「立命館大学国際平和ミュージアムのガイドとして活動すること パート2」講師：安齋育郎
- その他、夏休み親子企画「へいわ」ってなに？2014「明子さんのピアノで奏でる演奏会」7/26、下見見学会（7・8月8回）、博物館実習（7・8月10名）・京都市中学校生き方探求・チャレンジ体験の受入れ（2中学校、5名）、NGO ワークショップ第1回：7/1「男も女も働きやすい社会へ～身近にある貧困を見てみよう、考えてみよう」などの企画を行ないました。

平和資料館・草の家：高知

事務局員 安部愛

2014年5月10日、2014年度総会を開きました。多岐にわたる継続すべき活動と併せて、今年創立25年の節目を迎える草の家の今後の役割について未来を見据え、人間の生命をおびやかす課題がひとつずつ解決されるように、今年は特に主体となって運動に取り組んでゆくことなど話し合いました。また、オープニングでは、歌い手の芝村和天（しばむらかずたか）さんによる記念の催し、寓話「茶色の朝」（フランク・パブロフ作）の“一人語り”が行われました。

5月17日には、「今こそ、平和憲法を生かすとき～戦争できる国づくりを許さないために～」と題して、高知県立高校で38年間社会科教諭をされた田所金久（たどころかねひさ）さんを講師に迎え、県立大学永国寺キャンパスで憲法学習会を開きました。参加者は30名でした。日本科学者会議高知支部と共催。

5月31日から6月1日にかけては、「第5回戦争遺跡保存四国シンポジウム高知大会」が開かれました。1日目は高知県南国市前浜公民館にて基調報告と四国各県から事例発表があり、2日目は前浜にある掩体壕群、三島村尋常高等小学校碑・指揮所壕跡、高知大学農学部構内にある耐弾式通信所跡、香南市の上岡戦争遺跡群など、戦争遺跡見学が行われました。県内外から集まった参加者は全体で約50名でした。

現在、草の家では毎年恒例の「2014ピースウェイブ in こうち」を開催中です。6月29日に「第32回平和七夕まつり」がはじまり、7月いっぱい市内の京町・新京橋商店街アーケードを彩ります。今年も県内小中学校、福祉施設、民主団体等からたくさんの折り鶴が寄せられました。「世界中で戦争がなくなりますように」「人々は平和を願ってつき進む」などメッセージも添えられています。7月2日から7月8日にかけては「第36回戦争と平和を考える資料展」を市内自由民権記念館にて開催しました。今年は、福島原発事故から「核問題」について掘り下げ、「原発と原爆」「原発と戦争」を大きなテーマとして企画展示を行いました。6日間で約470名の来場者

がありました。その他、「第 20 回アジアの人々が連帯するつどい」(7月5日)では日本と中国の過去・現在・未来について考える座談会、「立憲主義の危機に抗う」(7月5日)では元イラク自衛隊派兵差止訴訟弁護団事務局長の弁護士・川口創(かわぐちはじめ)さんによる講演会、「第 31 回平和映画祭」(7月6日)では劇映画「はだしのゲン」第1部を上映し、「第 31 回反核平和コンサート」(7月7日)では小さいお子さんからご老人まで幅広い年代が参加した音楽のつどいが各実行委員会によって開催されました。今年の行事も残すところあとわずかです。

岡まさはる記念長崎平和資料館

理事長：高實康稔

最近内外の研究者や大学ゼミの来館が増えているように感じます。

2014年1～6月の主な活動は以下のとおりです。

- ・1月11日：日本の近現代史連続講座第5回「第二次世界大戦・ヨーロッパ戦線と日本の動向」(講師：門更月)
- ・1月12日：機関誌『西坂だより』第72号発送
- ・2月8日：近現代史講座第6回「戦争と女性」(講師：国武雅子)
- ・2月23日：ベルリン工科大学のアイヒホルン教授(独日平和フォーラム代表)が国外ボランティア奉仕活動の青年3人を連れて来館され、翌日、長崎市長を表敬訪問(Eichhorn)
- ・3月8日：近現代史講座第7回「撫順戦犯管理所が照射する日中戦争」(講師：奥山忍)
- ・4月12日：近現代史講座第8回「軍は「民」を守ったか 戦争末期の「満州」・沖縄」(講師：新海智広)
- ・4月13日：機関誌『西坂だより』第73号発送
- ・5月31日：第14次日中友好訪中団募集案内を会員に発送
- ・6月3日：第12次日中友好「希望の翼」訪中学生募集案内を記者発表

・6月28日：「希望の翼」応募学生2名の面接、2名とも採用決定

<http://www.d3.dion.ne.jp/~okakinen>

ひめゆり平和祈念資料館

2014年6月23日、ひめゆり平和祈念資料館は開館25周年を迎えました。多くの皆さまにお越しいただき、夏には入館者数が2000万人に達する見込みです。また、年間2300余の学校団体が修学旅行等で訪れ、平和学習の場となっています。これも、当館に関心を寄せ、応援して下さる皆さまのおかげと感謝いたしております。

開館25周年記念特別展「ひめゆりの証言員たち—沖繩戦を伝えてきた25年—」を7月18日から2015年3月31日まで開催します。1982年、ひめゆり同窓会は平和資料館の建設を決意し、1989年にひめゆり平和祈念資料館を設立しました。開館以来、元ひめゆり学徒たちは「証言員」として、来館者に自らの体験を語り続けています。戦争の悲惨さを伝え、平和の尊さ、命の大切さを訴えることが亡き学友の鎮魂につながると信じてきました。証言員たちの軌跡をたどる今回の特別展が、ひめゆりの平和への思いを次の世代につなぐ機会になることを願っています。

〈展示内容〉

- プロローグ 語れなかった体験
- 1 ひめゆりの体験を伝える資料館を
 - 2 ひめゆり平和祈念資料館開館
 - 3 証言員活動の始まり
 - 4 戦争体験講話
 - 5 「生き残ってしまった」から「生かされた」へ
「ひめゆりの証言員たち」の25年
 - 6 資料館活動の担い手として
 - 7 来館者の声に励まされて
証言員の1日
 - 8 次世代プロジェクト
 - 9 平和のバトンを次の世代へ
- エピローグ
〈証言ビデオ〉



「ひめゆりの証言員たち」(20分)
証言員が戦争体験を語り始めたきっかけ、語り続ける力となった来館者の反応や亡き友への思いなど、25年の活動を証言で伝えます。
Tel:098-997-2100 Fax:098-997-2102
<http://www.himeyuri.or.jp>

〈国内のニュース〉

●仙台市歴史民俗資料館：宮城

企画展「戦争と庶民の暮らし4」が2014年6月28日～11月3日の会期で開かれています。戊辰戦争、西南戦争、軍都仙台の誕生、日清戦争、日露戦争、第一次世界大戦、満州事変、日中戦争、アジア太平洋戦争、米軍占領期などに関する資料を通して、戦前・戦中・戦後の移り変わりを振り返るものです。展示資料の多くは、はじめて展示されるもので、学徒出陣した学生の資料、空襲関係資料もあります。企画展の中に、6月28日～8月24日には、1941～1945年に発行された『写真週報』、『同盟グラフ』、『主婦の友』、『婦人クラブ』などの雑誌を展示紹介する「雑誌で見るアジア・太平洋戦争」のテーマ展示が、6月28日～10月19日には、西南戦争からアジア・太平洋戦争ころまでに発行された軍票(軍用手票)を展示紹介する「戦争と軍票」のテーマ展示があります。8月30日～9月23日には日清戦争以降からアジア・太平洋戦争ころまでに発行された戦争を報道した新聞、号外などを紹介する「戦争と新聞」のテーマ展示が、9月27日～10月19日には日露戦争以降からアジア・太平洋戦争ころまでの軍事郵便を紹介する「軍事郵便」のテーマ展示がそれぞれ予定されています。図録を刊行しています。

企画展関連講座「戦争と庶民の暮らし」として、2014年6月28日に山辺昌彦(公益財団法人政治経済研究所)さんの「日本空襲を

いま改めて考えるー空襲の実相と空襲後の諸問題」が、2014年7月5日に安孫子麟(元東北大学教授)さんの「満洲事変と宮城の人びと」が、2014年7月12日に安孫子麟さんの「満洲開拓移民と宮城の農村」が開催されました。このあと、9月13日には一戸富士雄さんの「社会派軍人井置栄一隊長の悲劇」が、9月20日には一戸富士雄さんの「昭和戦前期、東北農村から身売りされた娘たち」が、9月27日には学芸員の佐藤雅也さんの「資料館所蔵資料から見る戦争と庶民の暮らし」が、それぞれあります。企画展関連の解説と歴史探訪「榴ヶ岡周辺の戦争遺跡を歩く」が、2014年7月19日～7月21日と8月15日、8月16日に開かれました。企画展関連の紙芝居「青い目の人形ものがたり」が2014年7月25日に演じられました。自主事業の、朗読リラの会による朗読公演「つつみのおひなっこ・仙台空襲物語」が2014年8月9日に実施されました。企画展関連の、よみきかせ「青い目の人形ものがたりー絵本と紙芝居」が2014年8月13日、17日、31日に催されました。

『調査報告書第32集 足元からみる民俗(22)』が刊行され、「戦時体制下の東北振興政策(2)ー東北の地域要望と東北振興調査会への陳情問題」、「戦争と庶民の暮らし(1)ー仙台市歴史民俗資料館の所蔵資料を中心に」、資料紹介「満洲事変の『陣中日誌』についてー野砲兵第2連隊第1大隊本部『陣中日誌』より(中間報告4)」などが掲載されています。『資料集第12冊 収蔵資料目録VII』が刊行され、旧四連隊(戦時)関係の資料目録も掲載されています。

Tel : 022-295-3956 Fax : 022-257-6401
<http://www.city.sendai.jp/kyouiku/rekimi/index.html>



●埼玉ピースミュージアム(埼玉県平和資料

館) : 東松山市

「新収集資料展—寄贈資料が語る戦時の記憶」が2014年1月11日～3月9日の会期で開かれました。戦争の時代と戦時下の人びとの暮らしや想いに焦点を当てて、展示していました。

「収蔵品展—雑誌と戦争」が2014年3月25日～5月11日の会期で開かれました。館蔵の雑誌を中心に、満州事変勃発(1931年)以前から、終戦(1945年)直後まで、当時の人びとが戦争とどう向き合ってきたかを紹介していました。

Tel:0493-35-4111 Fax:0493-35-4112

<http://www.saitama-peacemuseum.jp/>

●上福岡歴史民俗資料館: 埼玉

ミニ展示「造兵廠」が2014年6月14日～8月17日の会期により、2階展示ホールで開催されました。戦時中、上福岡にあった陸軍の弾薬工場の1つ「陸軍造兵廠川越製造所(火工廠)」を紹介する展示でした。関連して、2014年7月27日に2階研修室で、造兵廠川越製造所に学徒動員で勤めたことのある方から、当時のお話を聞く会が開かれました。

Tel:049-261-6065 Fax:049-269-4817

<http://www.city.fujimino.saitama.jp/facility/bunkasports/siryoukan/index.html>



●東京大空襲・戦災資料センター: 江東区

東京大空襲・戦災資料センター編『フィールドワーク東京大空襲』が、2014年2月22日に平和文化から発行されました。

「戦争末期の国策報道写真資料の歴史学的研究—国防写真隊と東方社を中心に」(科学研究費助成事業「学術研究助成基金助成金(基盤研究(C))」)2013年度研究成果報告書『戦

中・戦後の記録写真—「東方社コレクション」の全貌』が2014年2月28日に刊行されました。報告書には「青山光衛氏旧蔵東方社・文化社関係写真コレクション」(略称「東方社コレクション」)の解題と全ネガのコマ毎のリストを収録しています。全ネガの分析をふまえて、井上祐子さんが解題の総論「東方社再考—「東方社コレクション」のあらましと東方社への新たなアプローチ」を書き、解題の各論は山辺昌彦、井上祐子、植野真澄、小山亮、大岡聡の各担当者が分担して執筆しています。また、東京空襲を記録する会に寄贈され、東京大空襲・戦災資料センターに引き継がれた「日本写真公社撮影空襲関係写真」について、石橋星志さん作成の改訂したリストと写真一覧とを収録しています。

「都内戦災殉難者霊名簿」に記載された死者の住所と死亡地を線で結んだ「東京大空襲いのちの被災地図」と、東京空襲の体験者の時代ごとの証言映像が見られる「東京大空襲証言映像マップ」が2014年3月1日から公開されました。

「東京大空襲を語り継ぐつどい—東京大空襲・戦災資料センター開館11周年」が2014年3月9日に江東公会堂で開催されました。中村俊子さんの東京大空襲の体験談「父よ、弟よ生きていて」、「証言映像」作品・清岡美知子さんの「隅田公園で起きたこと」の上映、教育評論家の三上満さんの講演「私の原点と日本国憲法」などがありました。

Tel:03-5857-5631 Fax:03-5683-3326

<http://www.tokyo-sensai.net/>



●豊島区立郷土資料館: 東京

夏の収蔵資料展「戦争を考える夏 2014」が2014年年5月15日～8月31日の会期で開かれました。戦争と平和について考えるきっかけとするために、1945年4月13日の空襲

を中心とした被災資料、吉井忠が戦災直後に描いたスケッチ、被害写真などのほか、新たに寄贈された町会関係資料、防空演習関係資料、建物疎開の図面や資料、慰問袋とそこにあった慰問文や絵、出征兵士の描いた水彩画や軍事郵便、府立第十高等女学校生徒の防空訓練や空襲の様子が書かれた日誌なども展示していました。解説資料を作成しています。

研究紀要『生活と文化』第23号が2014年3月28日に発行され、青木哲夫さんの「学童集団疎開 疎開地の生活と改善策をめぐる諸議論」、広瀬純さん・三村宜敬さんの「豊島区立郷土資料館所蔵戦時下の代用品—陶磁器を中心として」など掲載されています。

Tel:03-3980-2351 Fax:03-3980-5271
<http://www.city.toshima.lg.jp/bunka/shiryokan/>



●復興記念館:東京・墨田区

東京都主催の「東京都平和の日」記念行事「東京空襲資料展」が復興記念館2階で2014年3月4～10日の会期により開かれました。

「東京都平和祈念館」のために寄贈された空襲関連資料の一部や写真パネルを展示し、「東京都平和祈念館」のために収録された証言映像の一部を上映しました。

Tel:03-3622-1208
<http://tokyoireikyokai.or.jp/>

●立教学院展示館:東京・豊島区

「立教学院展示館」が2014年5月9日、池袋キャンパスのメーザーライブラリー記念館（旧図書館本館旧館）に設置されました。立教大学をはじめ立教学院各校の教育・研究活動を、映像、写真、資料展示などを通して伝えています。戦時下での「基督教主義」が削除された立教学院寄付行為や大学学則、軍

事教練の写真や教科書、入営学生簿、戦場で戦没した学生の母あての葉書・遺影や日の丸の寄せ書き、空襲の状況を記した中学校の「教務日誌」、迷彩を施された中学校校舎、荒廃したチャペルの写真なども展示しています。

Tel:03-3985-4841
<http://www.rikkyogakuin.jp/hfr/>

●早稲田大学大学史資料センター:東京・新宿区

早稲田大学大学史資料センター2013年度受贈資料展「資料に読むワセダの物語」が2014年6月20日～8月3日の会期により、早稲田キャンパス26号館大隈記念タワー10階125記念室で開かれました。1943～1944年の学生の「忘備録」、早稲田大学久留米道場の絵はがき、学徒動員の表彰状、アルバムなどの戦時下の資料も展示していました。展示資料目録を作成しています。

Tel:042-451-1343 Fax:042-451-1347:
<http://www.waseda.jp/archives/>

●福生市郷土資料室:東京

企画展示「平和のための戦争資料展」が2014年6月28日～8月31日の会期で開かれました。毎年終戦の日に合わせ、福生に残された戦争関係資料から、平和について再認識することを目的として開かれる展示会です。今年は日露戦争の錦絵や軍事郵便を主に展示していました。

Tel:042-530-1120
<http://www.museum.fussa.tokyo.jp/>

●武蔵村山市立歴史民俗資料館:東京

ミニ企画展「武蔵村山の戦争資料」が2014年3月10日～31日の会期で開かれました。

1945年3月10日の「東京大空襲」にあわせて、市民から寄贈された資料を展示し、当時の様子や人びとの生活の一端を紹介し、戦争の悲惨さを伝えるものです。

Tel:042-560-6620 Fax:042-569-2762
<http://www.city.musashimurayama.lg.jp/shiryokan/index.html>



●川崎市平和館：神奈川県

常設展がリニューアルし、南京事件、三光作戦、731部隊などを書いた「日本の侵略と残虐行為」、「日本軍「慰安婦」制度とは何か」などのパネルが新たに展示されました。

2013年度第2回企画展「おカネから考える平和」が2013年12月21日～2014年1月31日の会期により、第3回企画展「平和を創る平和を考える」が2014年2月7日～3月2日の会期により、1階屋内広場で日本平和学会のメンバーの協力により開かれました。

「川崎大空襲記録展」が2014年3月8日～5月6日の会期により、1階の屋内広場で開かれ、4月15日の川崎大空襲を中心とする川崎大空襲の記録を展示していました。

Tel:044-433-0171 Fax:044-433-0232
<http://www.city.kawasaki.jp/shisetsu/category/21-21-0-0-0-0-0-0-0.html>

●横浜市史資料室：神奈川県

企画展「B29搭乗員の資料から見た空襲」が2014年4月1日～7月中旬までの会期で開かれました。実業家から寄贈されたキング・マーティン元中尉の遺品の展示で、横浜空襲で被害を受けた横浜市神奈川区の航空写真などの写真や、搭乗員のバッグ、腕時計、ワッペンも展示していました。展示資料目録を作成しています。

Tel:045-251-3260 Fax:045-251-7321

<http://www.city.yokohama.lg.jp/somu/org/housei/sisi/>



●長岡戦災資料館：新潟

長岡空襲体験画展が、2014年4月19日～5月11日と5月24日～6月15日の会期で開かれました。長岡空襲の体験を聞く会が2014年5月11日と6月7日に開かれました。

Tel:0258-36-3269 Fax:0258-36-3335
<http://www.city.nagaoka.niigata.jp/kurasahi/sensai/siryokan.html>

●静岡平和資料センター：静岡市

企画展「空襲を伝えるドイツの都市ードレスデン・ベルリン・ハンブルク」が2014年2月14日～5月25日の会期で開催されました。東京大空襲・戦災資料センターが制作した巡回展です。関連して、東京大空襲・戦災資料センター主任研究員の山本唯人さんの講演「ドイツ空襲被災都市を訪問した旅」が2014年3月16日にありました。2014年4月20日には「空襲の記憶と継承について、みんなで考える」が、東海大学文学部ヨーロッパ文明学科講師の柳原伸洋さんの講演と司会により開かれました。

Tel& Fax:054-271-9004
<http://homepage2.nifty.com/shizuoka-heiwa/index.html>



●大阪国際平和センター（ピースおおさか）：大阪市

「ピースおおさか収藏品展Ⅶ」が2014年1月28日～4月の会期により、「ピースおおさか収藏品展Ⅷ」が2014年4月29日～8月31日の会期により、それぞれ特別展示室で開かれました。

大阪大空襲 平和祈念事業として、幻の「卒業式」と、第2回「『語り継ぎ部』育成のための交流会－「語り部」から学ぶ」が2014年3月13日に講堂で開かれました。久保三也子さん(「大阪大空襲の体験を語る会」代表)、伊賀孝子さん(「大阪戦災傷害者・遺族の会」代表)、奥村誠一さん(「国民学校と学童疎開を考える会」理事長)の講演のあと、語り部さんと会場の方との意見交換がありました。

「ゴールデンウィーク親子まつり」が2014年5月1日、2日、4日、6日に講堂で開かれ、映画が上映されました。

Tel:06-6947-7208 Fax:06-6943-6080

<http://www.peace-osaka.or.jp/>



●平和と人権資料館(フェニックス・ミュージアム):大阪

企画展示「戦時下のくらしと堺空襲－模型と記録写真を通して」が2014年4月2日～6月29日の会期で開かれました。館の収蔵写真と市民から寄贈された戦時下の模型を展示し、戦時体制に組み込まれた市民生活と空襲の恐怖を伝えていました。

Tel:072-270-8150 Fax:072-270-8159

http://www.city.sakai.lg.jp/shisei/jinken/jinken/heiwa_jinkenshiryokan/



●姫路市平和資料館:兵庫

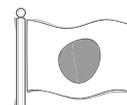
収蔵品展「満州事変から終戦そして姫路の復興」が2014年1月11日～3月30日の会期により2階展示室で開催されました。関連して、2014年2月11日に2階会議室で姫路空襲体験者の黒田権大さんのお話を聞く会が開かれました。

春季企画展「戦時下の看護活動」が2014年4月12日～7月6日の会期により2階展示室で開催されました。戦時下の過酷な状況の

中で救護活動に従事した姫路の看護婦を中心に、当時の姫路の病院の状況や看護婦養成所の様子、卒業後の看護婦が戦地や空襲下で体験した過酷な看護活動や戦争の悲惨さ、また終戦後のGHQによる看護教育の改革や引揚げ事業への協力などを紹介していました。関連して、2014年5月5日には、女優の駒田真紀さんによる姫路空襲体験記朗読会が、6月22日には田路信一さんを講師に姫路空襲体験談を聞く会が、それぞれ開かれました。

Tel:079-291-2525 Fax:079-291-2526

http://www.city.himeji.lg.jp/s50/heiwasiryu/_8293.html



●奈良県立図書館:奈良市

戦争体験文庫企画展示「愛国百人一首を読む」が2014年1月5日～3月27日の会期で開かれました。かるたを読むシリーズの第4弾で、愛国百人一首は日本文学報国会が選定し、1942年11月に発表したものです。

戦争体験文庫企画展示「日本統治下サイパンの日常から戦争へ 須藤ヨシエ氏の「サイパン島戦争体験記」を読む1」が2014年3月29日～6月26日の会期で開かれました。手記原本と南洋群島協会によって復刻された「サイパン島ガラバン市街図」や、南洋協会南洋群島支部が発行した『日本の南洋群島』に採録されている写真なども展示されました。

Tel:0742-34-2111 Fax:0742-34-2777

<http://www.library.pref.nara.jp/sentai/ikaku.html>



●岡山シティミュージアム:岡山

企画展「第37回 岡山戦災の記録と写真展－戦争中の岡山市民の備え」が2014年6月19日～7月6日の会期により、岡山シティミュージアム4階展示室で開催されました。今

回の展覧会は、当時の岡山の人びとが、どのような空襲の備えをしていて、空襲の際の様子はどうだったのかを、残された実物資料を展示して紹介するものでした。関連して記念講演会が2014年7月5日に開かれ、神田外国語大学の土田宏成さんが「「国民防空」体制が出来るまで」と題して講演しました。

Tel:086-898-3000 Fax:086-898-3003
<http://www.city.okayama.jp/okayama-city-museum/>



●国立広島原爆死没者追悼平和祈念館：広島市

企画展「原爆の子 広島の子のうったえ」が2014年1月1日～12月28日の会期により、地下1階の情報展示コーナーで開かれています。被爆から6年、広島の街が復興へと歩む中、子どもたちが書いた被爆体験記集『原爆の子 広島の子のうったえ』が出版されました。今回の企画展は、今も読み続けられている被爆体験記集を紹介し、子どもたちが体験した戦争や原爆の悲惨さ、平和への思いを伝えるものです。

Tel:082-543-6271 Fax:082-543-6273
<http://www.hiro-tsuitokenkan.go.jp/>

●福山市人権平和資料館：広島

企画展「絵で語る 子どもたちの太平洋戦争」（岡田黎子画集より）が2014年6月6日～7月31日の会期で開催されました。岡田黎子さんは1929年に広島県で生まれ、1944年11月から1945年8月の終戦まで、忠海兵器製造所、大久野島毒ガス製造工場に学徒として出動しました。また、被爆後の広島で救護活動にも従事しました。京都市美術専門学校（現 京都市立芸術大学）卒業後、中学校、高等学校で美術担当教師として勤務

しました。画集「大久野島・動員学徒の語り」、画集「絵で語る 子どもたちの太平洋戦争—毒ガス島・ヒロシマ・少国民」などを描いています。「絵で語る 子どもたちの太平洋戦争—毒ガス島・ヒロシマ・少国民」は、第1部が31枚、第2部が33枚の「絵と語り」から構成されています。画集では、当時の子どもたちの学校生活や国民が戦時体制に組み込まれていく様子が、いずれも幻想的なタッチとやさしい語り口で描かれています。今回は画集第2部の33枚をパネルにして展示していました。関連して、作者岡田黎子さんのお話を聞く会と、LIVES(ライブズ)による平和コンサートが2014年6月22日に2階で開かれました。

Tel:084-924-6789
<http://www.city.fukuyama.hiroshima.jp/so-shiki/jinkenheiwa/>



●福岡市博物館：福岡

企画展示「戦争とわたしたちの暮らし 23—「戦争時代」の子どもたち」が2014年6月3日～7月27日の会期により、企画展示室1で開催されました。今回は、学校教育や少年団の活動関係など、戦時期の子どもたちの暮らしに関する資料を展示していました。

Tel:092-845-5011 Fax:092-845-5019
<http://museum.city.fukuoka.jp/>

●沖縄県平和祈念資料館：糸満市

第1回子ども・プロセス企画展「沖縄戦への道—70年前、その時、何が…」が2014年6月2日～7月7日の会期により、1階ひろば・ゆいまーるで開催されました。今年は、沖縄守備軍の配備やサイパンの戦い、学童疎開、対馬丸遭難、10・10空襲など沖縄戦につながるさまざまな出来事が紹介されました。

Tel:098-997-3844 Fax:098-997-3947
<http://www.peace-museum.pref.okinawa.jp/>



●対馬丸記念館：沖縄・那覇市

学童疎開船「対馬丸」の遭難者を救助した船員手記が、2014年6月1日～8月31日の期間に2階展示室で特別公開展示されました。

Tel:098-941-3515 Fax:098-863-3683
<http://www.tsushimamaru.or.jp/>

●那覇市歴史博物館：沖縄

企画展「戦時体制下の沖縄—沖縄戦への道」が2014年5月31日～7月2日の会期で開かれました。日中戦争から沖縄戦へ、どのようにして沖縄社会が戦時体制下へ入っていたのかを、当時の資料や写真をもとに紹介したものです。主に10・10空襲以前における戦時体制下の沖縄での日本による住民の動員や、沖縄戦の様相などを紹介していました。

Tel:098-869-5266 Fax:098-869-5267
<http://www.rekishu-archive.city.naha.okinawa.jp/>



●うるま市立石川歴史民俗資料館：沖縄

平和資料展「與衆偕楽—志喜屋孝信という男」が2014年5月16日～6月29日の会期で開かれました。戦前戦後の激動期に沖縄の教育、戦後復興に手腕を発揮したうるま市出身の「志喜屋孝信」の生涯をたどりながら、平和な世の中に大切なものはなにか、を考えていくものでした。

Tel&Fax:098-965-3866
<http://city.uruma.lg.jp/6/5141.html>



●久米島博物館：沖縄

「平和展 2014—二度と戦争をおこさないために・ヌチドゥ宝！」が2014年6月7日～22日の会期により、特別展示室・講堂で開かれました。戦後69年を迎え、戦争の犠牲になった多くの霊を弔い、沖縄戦や久米島での住民虐殺などの歴史的教訓を正しく次世代の子ども達に伝え、命の尊さや平和の大切さを学ぶための企画展でした。

Tel:098-896-7181 Fax:098-896-7182
<http://sizenbunka.ti-da.net/>

●宜野湾市立博物館：沖縄

慰霊の日・写真パネル展「イクサユース じのーん（戦世の宜野湾）」が2014年6月18日～7月13日の会期により、企画展示室で開催されました。沖縄戦を歴史の1コマとして終わらせることなく、戦争と平和について考えることを目的として開かれたものです。

Tel:098-870-9317 Fax:098-870-9316
<http://www.city.ginowan.okinawa.jp/cityguide/publicfacility/06/paneruten.html>



●名護博物館：沖縄

企画展「名護・やんばるの戦争—10・10空襲」が2014年6月13日～22日の会期により、ギャラリーで開催されました。戦場ははるか南方の方だと思っていた1944年10月10日、突然アメリカ軍の空襲を受けました。本部半島瀬底近くで軍艦が攻撃され、そこを逃れた軍艦が名護湾に侵入しましたが、宮里大岩前で撃沈されました。アメリカ軍機は名護まちを低空で駆け抜け、名護湾で攻撃を仕掛け旋回して名護岳を回りこみ、攻撃を繰り返しました。

Tel:0980-53-1342 Fax:0980-53-1362
<http://www.city.nago.okinawa.jp/4/3282.html>



●宮古島市総合博物館：沖縄

「慰霊の日」特別展「戦争とは何かーモノから考える」が2014年6月6日～27日の会期で開かれました。今回は、戦後のモノ、太平洋戦争に向かっていく様子、日本軍資料、戦時中の人びとの生活の様子、戦時中の宮古南静園の5つのテーマに分けて、貯水タンクやサバニの代わりに改造していた軍用機の燃料タンク、アルミニウム合金の一種、ジュラルミンで作ったなべ、徴兵検査通達書など87点が展示されました。

Tel:0980-73-0567

<http://www.city.miyakojima.lg.jp/soshiki/kyouiku/syougaiyakusyu/hakubutsukan/>

●「震災で消えた小さな命展」

東日本大震災では人間だけでなく、たくさんの動物たちも犠牲になりました。家族同様のイヌやネコ、ウサギやハムスター、鳥、金魚…。

「震災で消えた小さな命展」では、絵本作家・画家たちが、震災で亡くなった動物たちの絵を描き、その『小さな命』を絵の中によみがえらせた。

描いた絵は、国内外で展覧会を開催し、展覧会終了後、動物たちの飼い主に贈ります。

日本ではまだ動物たちが人と同じように避難する事ができません。

その命を思う人にとっては、姿かたちが違って人間と同じ大切な家族です。

動物にも優しくできる社会でなければ本当の平和は訪れないと私は思います。

現在、『震災で消えた小さな命展』の開催地を募集中です。

- ・作品数 50～60点
- ・サイズ 250×300mmくらい

開催期間「震災で消えた小さな命展 3 (原画展)」：2015年3月～11月末

「震災で消えた小さな命展 1・2の複製画展」：随時

開催条件：絵画運搬費・絵画借用料・展示準

備1名分交通費

お問合せ 電話：090-3135-2008 (代表 うさ)

メール：hello@chiisanainochi.com

「震災で消えた小さな命展」

www.chiisanainochi.com

〈出版物〉

『ぼくは海になった—東日本大震災で消えた小さな命の物語』[大型本]

うさ(著) くもん出版 (2014)



第8回国際平和博物館会議への
財政支援のお願い

ノグンリ国際会議・国際アドバイザー

安斎育郎

すでにご案内のとおり、第8回国際平和博物館会議が2014年9月19日～9月22日、韓国・ノグンリ平和公園で開催される予定で、日本からも会議の定員(150人)の半分近い人々が参加する意思を表明しています。会議言語は「英語」が共通語として用いられますが、日本からの参加者が会議を理解し、日本語で発表もできるように、通訳・翻訳の体制を整えることが求められます。また、発展途上国から日本の留学している学生たちもふくめて、財政的な支援を必要としている参加予定者もいますし、会議終了後は、日本語版の報告書が作られることも期待されています。

そこで、第8回国際平和博物館会議の国際アドバイザーの一人である私・安斎育郎の名前で、寄付をお願いしています。寄付の募集は、会議の報告書の完成時期を想定して、2014年10月31日までとしています。

寄付の要領は以下をご参照ください。

- 目的：2014年9月に韓国で開かれる「第8回国際平和博物館会議」への日本からの参加者（発展途上国などから留学中の学生も含）に対する移動、通訳、報告書作成などへの支援。
- 目標額：300万円
- 決算報告：決算報告書が整い次第、郵送にてお届けします。

〈ご寄付の送り先〉

ご寄付の受け取り口座は、株式会社ゆうちょ銀行の「アンザイクロウ」普通預金口座です。

- 郵便局からの振込みの場合

ゆうちょ銀行の口座をもっていてATMを使える場合は「無料」ですが、郵便局の窓口で「振込用紙」で送る場合は「手数料」がかかります。

記号：14440 番号：3883851

口座名：アンザイクロウ

- 銀行などからの振込みの場合（有料）

【店名】四四八（読み ヨンヨンハチ）

【店番】448 【預金種目】普通預金

【口座番号】0388385

【口座名】アンザイクロウ

- 安齋育郎（アンザイクロウ）の住所

〒611-0023 京都府宇治市折居台4-1-84



なぜ、第8回国際平和博物館会議は 韓国のノグンリで開かれるか？

会議が開かれるノグンリ平和公園は、ソウルとプサン間にあります。1950年の朝鮮戦争のとき、アメリカ軍が誤って数百人の韓国人を無差別攻撃して多数の犠牲者を出した現場です。クリントン政権のとき「謝罪と和解」が成立し、法律に基づいて平和博物館などの平和施設が整備されました。

「平和のための博物館国際ネットワーク理事会」は、2011年、第8回会議を2014年9月19日～22日にノグンリで開催することを決定し、日本からもたくさん参加する予定です。

今回の募金事務を担当している安齋は、立命館大学国際平和ミュージアムの山根和代副館長ともども、同会議の「国際アドバイザー」です。

集团的自衛権閣議決定についての 館長・名誉館長声明

立命館大学国際平和ミュージアム

「集团的自衛権行使容認」をめぐる 閣議決定について

2014年7月1日、安倍内閣は「集团的自衛権」の行使に道を開く憲法解釈についての閣議決定を行ないました。

この決定は、日本と「密接な関係」にある他国が武力攻撃を受け、日本における「国民の生命、自由及び幸福追求の権利が根底から覆される明白な危険」があり、それを排除するために他の適当な手段がない場合に、「必要最小限度の実力を行使すること」が自衛のための措置として「憲法上許容される」とするものです。

さまざまな文言上の制約が付されてはいても、それらは時の内閣による恣意的な解釈の危険を払拭するものではなく、日本国憲法公

布以来の集団的自衛権に関する政府解釈を根本的に変更するものと言わなければなりません。「密接な関係にある同盟国の防衛」の名のもとに、紛争解決において自衛隊による武力行使の可能性に道を開くことは、「紛争解決の手段」として「戦争、武力による威嚇又は武力の行使」は「永久にこれを放棄する」とした日本国憲法9条第1項の精神とは明らかに矛盾すると考えざるを得ません。

立命館大学国際平和ミュージアムは、日本国憲法に関する展示コーナーをもち、1999年の「ハーグ世界平和市民会議」(The Hague Appeal for Peace)においても、日本国憲法9条の重要性が言及されたことを紹介しています。

憲法9条は、「日本国民は、正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求する」と宣言しています。この9条の理念こそ、戦争を違法化しようとする近代社会の長い歴史的な営みの結晶ともいえるべきものです。安倍首相は「積極的平和」主義という用語を好んで用いますが、「積極的平和」とは、現代平和学においては、武力紛争をなくすという「消極的平和」だけではなく、社会的差別や貧困や人権抑圧を含むさまざまな暴力を社会からなくす積極的な努力を意味する概念であることは良く知られています。日本が、公正で持続可能な国際社会の発展、および、真の意味での「積極的平和」の実現のために、憲法の理想をいっそう広め、憲法で言論の自由が保障されている民主主義国家として、その現実化のために努力することが求められています。

私たちは「交戦権の否認」の理念をもとに、この世界からあらゆる直接的・構造的・文化的暴力をなくすために努力し、近隣の国々と友好的な関係を保つてこそ、国際社会で名誉ある地位を築くことができると考えます。

平和主義の理念を遵守することによってこそ、国際社会の平和と繁栄に貢献すべきであることを日本国政府に強く求めます。

2014年7月30日

館長 モンテ・カセム
名誉館長 安齋育郎

(注) この声明については、「平和のための博

物館国際ネットワーク(INMP)」の理事からも、次のような声が寄せられています。ノルウェーのアン・ケリングさんは、謝意に続いて、“CONGRATULATIONS on the statement itself!”(声明そのものも、おめでとう!)という表現で、賛意を表明しました。イタリアのルチェッタ・サングイネッティさんからは、「国際平和ミュージアムの声明は奨励されるべきだし、平和のための博物館国際ネットワーク(INMP)自身がこのような声明を出すべきだ」というメッセージが、また、オランダのエリック・ソーメルスさんからは、「深く共感します。日本政府へのあなた方の要求を全面的に支持します」というメールが届きました。さらに、パキスタンのサイド・シカnder・メディさんからは、「日本での悲しむべき状況についての声明に感謝します。日本の再軍事化は悲劇的であり、中国との対立は日本のみならず世界にとっても災いとなるでしょう。立命館の平和ミュージアムの館長・名誉館長が声明を発したことは注目すべきです」との見解が伝えられてきました。そして、アメリカのステイーヴ・フライバーグさんは、「『戦争放棄という憲法をもつ国がある』という極めて重要な問題については、INMPの会員や理事はためらうことなく声明を発すべきだし、ネットワークとして声明を発する方法もあって然るべきだ」という強いメッセージを寄せました。(A)

平和についての近刊書

◆中野信夫著『軍医殿！腹をやられましたーインパール作戦とビルマ敗走記』(かもがわブックレット195) 2014年1月

京都の戦争展運動や国際平和ミュージアムの創設に貢献した中野信夫(1910-2010)氏の壮絶な戦争体験記『靖国街道』(1976年刊)を、ご長女の中野圭子氏が「副読本」としての活用を願って再刊したものの。

◆『続 いのちの道ー戦争体験者と戦争を知らない世代の語りの場として』(社会福祉法人ミッションからしだね 〒607-8216 京都市山科区勤修寺東出町75) 発行、発行責任者=鮫島福子) 2014年3月

「現在は、戦争を経験した人がだんだん少なくなっていて、いまの若い人たちに伝えることができず、戦争のことをあまり知らない若い人たちがたくさんいると思います」という中学生の『京都新聞』への投稿を機に、戦争体験者と戦争を知らない世代のエッセイを編集したもの。

◆君島東彦・名和又介・横山治生編『戦争と平和を問いなおす—平和学のフロンティア』（法律文化社） 2014年4月

暴力の原因と平和の条件を探究するための平和学の最新の入門書。暴力・戦争と平和について、これまで開拓されてこなかった「心理・建築・芸術・倫理・協同組合」等の学問領域からの問題提起を紹介しつつ、平和創造のための新たな視座と方法を提示している。

◆高瀬毅『ブラボー：隠されたビキニ水爆実験の真実』（平凡社） 2014年6月

2014年はビキニ水爆被災事件から60年目。漁労長・見崎吉男氏の半生記を柱に、新たな事実と福島原発事故につながる今日的な意味にも迫る書き下ろし。また、2014年3月に自費出版された枝村三郎著『水爆と第五福竜丸—隠された事件の真相』（〒426-0006 静岡県藤枝市藤岡 3-12-5 枝村三郎 tel:054-638-2871）もある。

◆日本平和学会編『平和の主体論』（早稲田大学出版部） 2014年7月

暴力の正当化にあらがい、「見える」あるいは「見えない」暴力に立ち向かい、平和を創造する主体はいったい誰なのか？ 一人ひとりの思考の営みを問う。運動と研究が交錯する複雑な分野に切り込んだ、日本平和学会の会員たちによる最近著。

◆佐喜真道夫『アートで平和をつくる——沖縄・佐喜真美術館の軌跡』（岩波ブックレット） 2014年7月

画家の丸木夫妻の「沖縄戦の図」でもしら

れる佐喜真美術館の佐喜真道夫館長の最近著で、同美術館が建てられた経緯が、著者の生い立ちに遡って、一つの物語として語られ、そのことを通じて、戦後沖縄の歩みが見えてくる。カラー図版多数。

◆社会福祉法人わたり福祉会・さくら保育園編、安斎育郎・大宮勇著『それでも、さくらは咲く—福島・渡利 あの日から保育をつくる』（かもがわ出版） 2014年8月

子どもたちを放射能から守ること、子ども時代に不可欠なゆたかな体験を保障すること—保育者と保護者と科学者が共同で苦しみと不安の中から絞り出した実践を、科学に基づき創意に満ちた感動と希望の記録としてまとめたもの。

編集後記

集団的自衛権に関する憲法解釈を変更する閣議決定を契機に、戦争の危険が論じられる機会が多くなりました。2014年8月6日・9日の広島・長崎の日にも、被爆者団体から政府に対して「閣議決定の取り消し」を求める声が訴えられました。シリア・ウクライナ・イラク・ガザなどの暴力の実情を見るにつけ、戦争の悲惨さは明白です。この国を危険な道に逆戻りさせないために、平和博物館の役割はいっそうその重要性を増しています。経験を交流し、連携を！（安斎）